



仲間と一緒に

ぜいたくな時間と空間を

NO. 5 令和3年5月14日

## 「連携」の意味を考える出来事

先週、  
ちゃんが体調不良により幼稚園をお休みされていました。

今週月曜日からは元気に登園してくれているので、  
くんと  
ちゃん2人の微笑ましいやりとり  
が再開しました（笑）

さて、その  
ちゃんがお休みだった期間のエピソードです。

何人かの小学生が、「今日は一人？」とか、「女の子がいないけど？」とつぶやいたり、直接私に尋ねてきてくれたりしました。

幼稚園のことを気にしてくれている小学生がいることに小学生の言葉から気付かされ、嬉しく思いました。また、HPをご覧になっている小学生の保護者の方から、「HPの画像に、  
ちゃんがいなかったみたいですが元気になっていますか？」とわざわざ私に声をかけて確かめてくださった方もいらっしゃいます。自分の子どものことではないのに、幼稚園の子ども達の様子を気にかけてくださっていること、とてもありがたく感じました。



「連携」というワードは、様々な場面で使われますが、教育現場においてもよく登場します。身近なところでいうと「幼小連携」でしょうか…。肩肘張った連携は長続きしません。今回、私が出会った何気ない日常の一場面は、小難しい理屈など何一つない、本当の意味での「幼小連携」がとれている姿なのではないかと感じました。小学校と幼稚園、普段は特別な言葉にせずとも、互いに気にかけている存在であり続けたいと願っています。今回、心配な気持ちを寄せてくださった保護者や地域の方との連携も、同じことです。

あらためて「連携」とは・・・同じ目的で何かをしようとするものが、連絡をとり合ってそれを行うこと、なのだそうです。また連携には「互惠性」が大切で、一方の押し付けでは「連携」とは決して言えず、長続きもしません。（それにしても世の中には、本質を分かりにくくしてしまう危険性がある言葉が、案外たくさんあるものです…。）

「同じ目的」って、幼小連携ではどういうことだろう、その他の「連携」が必要な場面では？…と一つ一つ振り返ってみると、その「目的」があいまいだったり立場によって異なっていたりしたことに気付かされます。

「目的」をしっかり定め、共有することが連携の第一歩でしょうか。

たくさんの野菜の苗植えと  
一人一鉢栽培では、  
「ミニトマト」を植えました

小学校3館と4館の間にある  
畑（幼稚園の畝）のことを  
「やさいおうこく」と呼びます！



## 行事予定

5月17日（月）	朝の会
20日（木）	諸経費集金日

## お知らせとお願い

・雨上がりにお散歩や畑に行くこともありますので、雨天の日は長靴で登園させていただけると嬉しいです。

昨年度はコロナで休園中だったので、一年ぶりに子ども達と一緒にできる「野菜の苗植え」に感慨深いものを感じました。やっぱり、自分達の手で植えないとね♪